

第20回関西感染予防ネットワーク例会

平成20年1月12日

感染管理における各職種の役割と協力 ～自施設におけるICT活動と今後の課題～ ー検査技師の立場からー



近畿大学医学部附属病院
中央臨床検査部細菌検査室
佐藤 かおり

近畿大学医学部附属病院の概要

- 病床数 1000床
救命救急センター（CCU含む）
ICU
NICU
- 平均在院日数：14.9日 病床稼働率：90.4%
- 外来患者数：2468人/日 紹介率：50.3%

（2007年11月分現在）

細菌検査室の概要

- 技師数7人 認定臨床微生物検査技師2名
 (うち1名がICMT)
 臨床検査士(二級)取得者5名
- 実施検査 一般細菌、抗酸菌
 塗抹・培養・同定・感受性
 (抗酸菌遺伝子検査含む)
 迅速抗原検査

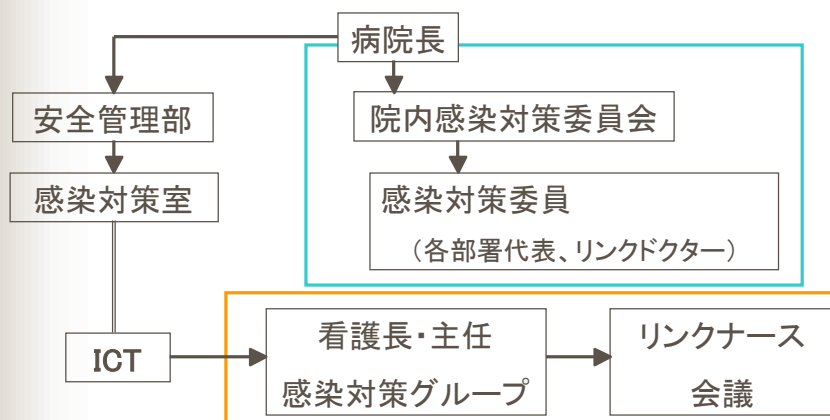
細菌検査室によるICT活動のサポート

- 病棟週報・月報
- 耐性菌週報
- MRSA分離状況・月報
- 血液培養陽性リスト・月報
- 血管内留置カテーテル培養陽性リスト・月報
- 緑膿菌分離患者リスト・月報
- 耐性菌分離患者リスト・月報
- インフルエンザ検査状況・週報
- 病棟におけるインフルエンザ陽性患者リスト・週報
- 新規MRSA検出患者リスト・週報

細菌検査室と診療部門の関係

- 直接報告
 - 血液培養陽性時
 - 血管内留置カテーテル等無菌材料からの菌検出時
 - 耐性菌分離時(MDRP, ESBL, MBL)
- 問い合わせへの回答
 - 結果の解釈、菌名の解説、抗菌薬の選択
- 指導
 - 感染制御セミナー(月1回開催)
- 疫学統計データの提供

院内感染対策関連の病院内組織図



ICTの構成メンバー

- 医師5名 (ICD)
 - 呼吸器内科、血液内科、外科、救命救急科
- 看護師2名 (うち1名がICN)
- 薬剤師1名
- 臨床検査技師1名 (ICMT)
- 事務部門2名 (用度・医事)

ICTのメンバーとして検査技師に 求められること

- 正しい検体採取、保存方法の教育
 - 患者向け、医療従事者向け
 - リーフレット作成・配布
- 検査結果の解釈の方法の解説
 - 微生物の病原性
 - 人体の正常菌叢
 - 抗菌薬感受性結果の解釈・有効抗菌薬
- 各種疫学統計の実施・提示

ICTのおもな活動

- 病棟ラウンド
- 病院内における感染症の監視・制御
- 感染管理教育
- 各種マニュアルの作成・改訂
- 感染に関する情報提供・啓発活動
- アウトブレイク時の対応
- 職業感染予防
- コンサルテーション
- ファシリティーマネジメント
- 感染に関する委員会・会議の運営
- 院外活動

ICTのラウンド(定期)

- 毎週1回(木曜日)
- ICT医師、看護師、臨床検査技師
- 対象は各種サーベイランスにより抽出
- ラウンド部署には事前に連絡
- 主治医、看護長、リンクナースが同席
- 症例のプレゼンテーションを行い、問題点について現状改善のために話し合う

ICTのラウンド(随時)

- 細菌検査室、看護部からの情報による
 - 同一菌の続発がある
 - 同一症状の続発がある
- 各部署からの要望がある

ICTのラウンド (感染担当看護長・主任チーム)

- 各所属のリンクナースがワードオーディットを実施・評価
- 看護部感染対策チームがワードオーディットを実施・評価
- 問題点は会議・現場で話し合い
- 状況をまとめリンクナース会議で報告

各種サーベイランス

- 耐性菌サーベイランス
 - MRSA, MDRP, ESBL, MBL
- SSIサーベイランス:外科系4病棟
- BSIサーベイランス:5病棟
- ICUサーベイランス
- JANISサーベイランス(5部門)

感染に関する情報提供・啓発活動

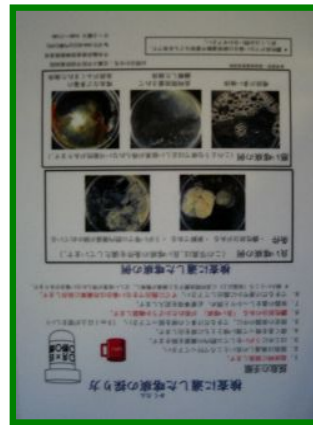
- 感染防御セミナー
 - 月1回開催
- ICTニュースの発行
- 南大阪感染対策ネットワーク
 - 年3〜4回開催
 - 参加施設での分離菌サーベイランス

配布リーフレット類

血液培養検体採取方法
(診療科向け)



喀痰採取方法
(患者向け)



アウトブレイク時の対応

- 早期発見
- 即時対応(環境調査)
- 対策立案・実施
- 実施効果確認

コンサルテーション

- 感染に関するすべてのこと
- 全職員対象
- 使用器材・物品の改善
- 細菌検査による対策効果の実証

当院ICT活動の現状における問題点

- 定期ラウンドが定期的に出ていない
 - 兼任のため従来業務との兼ね合いが難しい
- 定期ラウンドの対象患者の抽出方法が確立していない
- 定期ラウンドに薬剤師が同行していない
- 各種統計が活かしていない

やればやるほど業務は増える

組織の整備が急務!!!

今後の課題・目標

- 検査依頼・検体採取についてのアピール
- より迅速で臨床に役立つ検査の導入
- 他の技師の教育
- 感染管理システムの構築
- 電子カルテシステムの利用